

【写真1】



明治31年(1898)1月、インドにおける皆既日食。前近代では天皇に忌避された日食も、明治には写真が献上された。観測した東京帝国大学の献上か(別掲目録連番13「皆既日食真影」〈B8・32〉)。

【写真2】



橋本周延「今様四睡図」

荒木寛畝「孔雀」

明治20年開催の東京府工芸品共進会出品作品を写真油絵(特許技術)で再現したもの。現在は失われた幻の技術とされる。明治21年小豆沢亮一より献上(別掲目録連番別口1「小豆沢写真油絵」〈B8・160〉)。

【写真3】



京都府浄瑠璃寺の吉祥天立像。現在復元されている左手の宝珠がなく、指の破損も大きかったことがわかる。明治28年4月、奈良の写真師工藤利三郎が広島大本営の明治天皇に献上した古寺院仏像写真100枚のうち（別掲目録連番12「各種写真」〈B9・32〉第1帖）。

【写真4】



明治28年5月、日清戦争勝利後、東京に還幸する明治天皇の奉迎のため東京商人有志奉迎会が作った日比谷の凱施門。人物との対比でその巨大さがわかる。写真師丸木利陽献上（別掲目録連番21「凱施門写真帖」〈B8・92〉）。

【写真 5】



明治 29 年（1896）6 月 15 日の三陸地震津波の被害を受けた岩手県南閉伊郡大槌（現上閉伊郡大槌町）。現在の大槌稻荷神社からの撮影と推測される。
花巻の写真師照井政太郎が津波の翌々日から撮影した（別掲目録連番 24「諸国災害実況写真」（B9・33））。※退色が進んでいるため、階調補正を施した。

【写真6】



清国紫禁城乾清宮のペソラ写真。北清事変（義和団事件）後の明治34年、東京帝国大学工科大学が建築学上の観点から調査した際の写真。
小川一真撮影（別掲目録連番143「北京城写真」（B9・46））。

【写真 7】



大正 2 年（1913）3 月 28 日、陸軍歩兵学校（千葉県）行幸時の大正天皇
（別掲目録連番 97「陸軍歩兵学校行幸記念写真帖」〈B1・75〉）。

【写真 8】



大正 5 年、福岡俘虜収容所で体操する第一次世界大戦のドイツ兵捕虜。収容された合計 77 名の捕虜は、朝夕の点呼以外は自由とされ、昼間は「投球・体操・庭内散歩等ノ運動」や読書をし、夜間は楽器を楽しむ者もいると報告されている（別掲目録連番 106「第一二師管下状況報告」〈B8・9〉）。



11、12



1~4



箱上面



13、14



5、6



箱側面



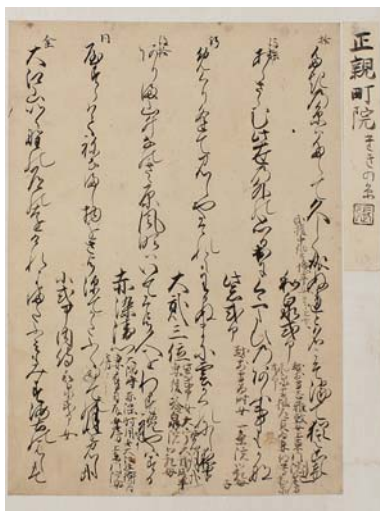
15、16



7、8



表紙



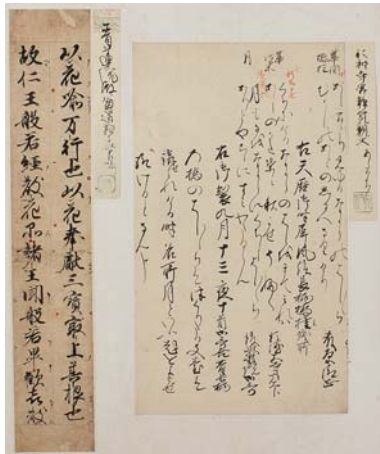
17



9、10



表面見返し



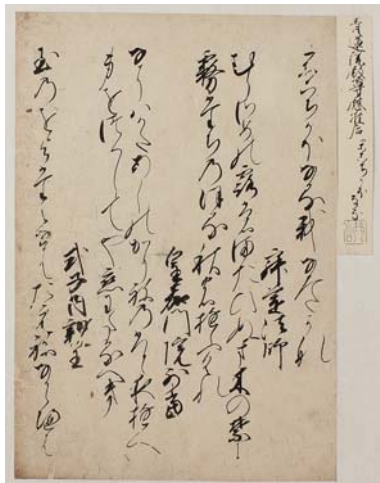
31、32



33、34



35



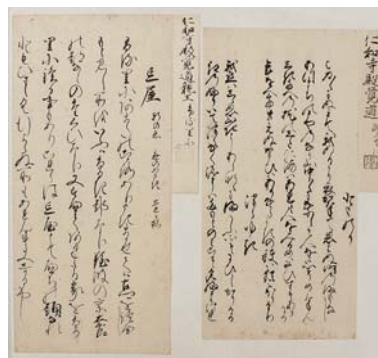
36



24



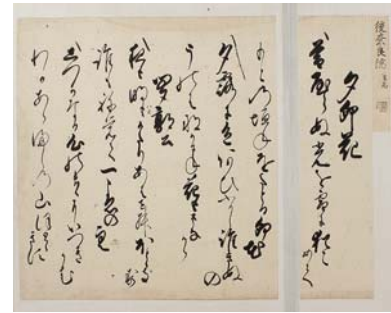
25、26



27、28



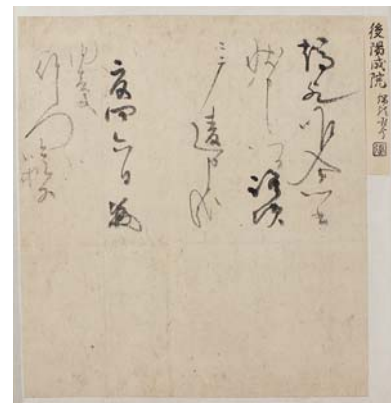
29、30



18



19、20



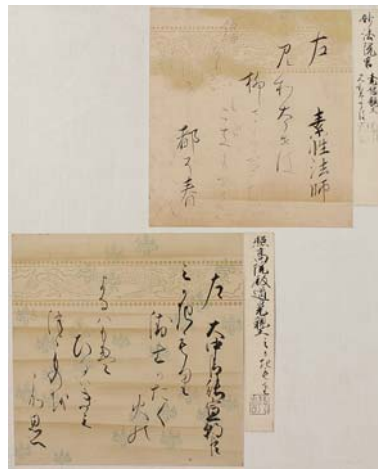
21



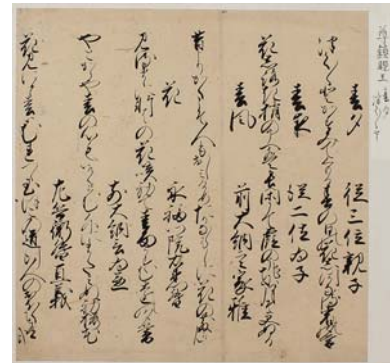
22、23



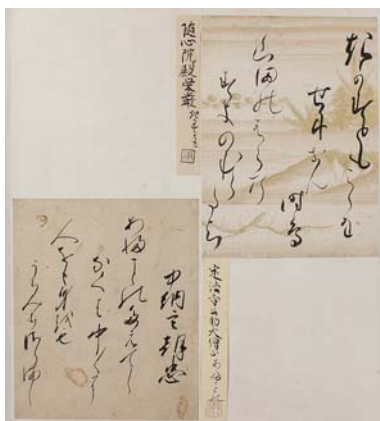
52, 53



45, 46



37



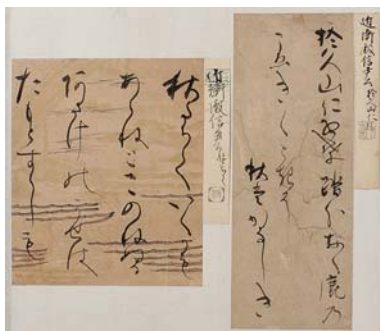
54, 55



47, 48



38, 39



56, 57



49



40, 41



58



50, 51



42~44